



## 「学校訪問Ⅰ」を終えて

平成17年度の学校訪問Ⅰは、幼稚園12園、小学校28校、中学校13校を対象に実施しました。

その中でも小・中学校の学校訪問Ⅰは、「会津の教育『5つの重点』」を指導・助言の柱として行いました。

その結果、各学校における「5つの重点」の取組について次のような成果や課題が上げられました。

### 1 「確かな学力」の向上について

**成果：**PDCAのサイクルを意識したグランドデザインの実践が定着してきた。

**課題：**単元末テストの結果を確実に分析し、それに基づいた補充的な指導をさらに充実していくよう努める。

学校訪問に見る5つの重点達成状況



### 2 道徳教育と体育・健康に関する指導の充実

**成果：**小・中共に基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせる取組を重視している。

**課題：**道徳教育の「学級における指導計画」の作成や活用及び学校保健委員会の開催が十分でない。

### 3 生徒指導の充実

**成果：**スクールカウンセラーや関係機関との連携を図りながら、不登校児童・生徒の復帰に向けた組織的な取組が真剣に行われている。

**課題：**生徒指導の機能を生かした指導について理解を深め、具体的な取組を強化していく必要がある。

### 4 教員一人一人の資質・指導力の向上

**成果：**危機感をもって研修に取り組む姿が見られてきた。

**課題：**日常の授業に具体的につながる校内研修をさらに進める必要がある。

### 5 開かれた学校教育の推進

**成果：**地域の人材活用が積極的に図られている。

**課題：**学校評議員制度の確立を推進する必要がある。

### ☆これからの取り組みの方向性☆

- グランドデザインの有効性を検証し、改善を加える。
- 「5つの重点」に対する取組の陥没点を洗い出し、共通理解・共通実践をさらに推進する。

## 公民館訪問を終えて

今年度も、17市町村すべての公民館の訪問を実施させていただいた。その中で、特に市町村合併や指定管理者制度の導入など、「公民館の運営基準の見直し」を踏まえた今後の公民館活動の在り方等についての協議テーマが多かった。

また、県の緊急課題である青少年教育及び家庭や地域の教育力の向上への取組については、その成果や課題等を協議しながら、改めて県が進めている「福島県子どもの居場所づくり推進事業」の重要性や有効性について再認識し合うことができた。

ここで、その実践例を紹介する。

### 地域の教育力を活かした“子どもの居場所”をめざして

会津坂下町金上キッズクラブ

地域全体で子どもを守り・育てるシステム(地域の教育力)を高め・活かしながら、この居場所を運営したいと考え、次の点に留意して活動を行っている。

#### ○金上小学校を居場所に

学校の理解を得て、オープンホール、図書室、中庭を使って活動をしている。地域の人が学校に出入する機会が多くなり、学校と地域がより身近になった。

#### ○事業説明会と保護者会の立ち上げ

4月のPTA総会時に、事業の主旨説明の時間をいただき、保護者の理解を得ながら保護者会を立ち上げ、年に1回以上ボランティアとして活動に関わってもらうようにした。

#### ○異世代間交流を中心に

地域の高齢者と交流することにより、お互いを理解し思いやる心を育んでいる。

居場所づくりには異世代交流が不可欠である。



お年寄りに折り紙を教わる子どもたち

#### ○乳幼児同伴のボランティア

就学前の子ども連れ参加も可としたところ、若いお母さんやおばあちゃんがボランティアとして多く参加するようになった。併せて子どもたちが乳幼児と接する良い機会となっている。

「福島県子どもの居場所づくり推進事業」は、学校・家庭・地域社会がそれぞれの立場で行える教育活動である。今後とも、こうした事業を通しながら、公民館が、家庭及び地域の教育力向上のために、学校・家庭・地域社会の連携の強化を図り、青少年の健全育成に寄与できるように更に支援・援助に努めていきたい。

# 地域に学ぶ

## すきのきのおほえ 「杉木之覚」碑 西会津町教育委員会

西会津インターチェンジを降りて約5分、大山祇神社や鳥追観音に行く道の途中にある雷山公園内には天保2年(1831年)に建てられた「杉木之覚」碑があります。

今から186年前の文政2年(1819年)、野沢で大火が発生し、全町焼失という被害を受けました。当時の野沢組代官志賀孫太郎は、領民・農民に対する非常時の救済策として植林奨励を発案しました。この植林事業は、文政8年(1825年)から7年間、野沢組代官所及びその管轄の42ヶ村で実施され、合計325,500本の杉が植えられました。

碑文には、各村に植えられた杉の本数の内訳のほか、手入れを怠らずに育てること、非常時には伐採して救済に充てること、基金100両を代官所に備えてその利子を維持管理のための費用に充当することなどが明記されています。

その所在地は、元々野沢原町村の本陣前高札場(現原町町営駐車場)にありましたが、その後野沢



小学校校庭、本町の諏訪神社などを転々とし、昭和44年(1969年)12月に現在地に移築されました。そして、昭和63年(1988年)3月に県の重要文化財に指定されました。

「杉木之覚」碑は、江戸時代における会津藩の民政史を知るうえで非常に貴重な資料となっているだけでなく、現代社会でも見過ごしがちな災害など非常時の備えについて多くの教訓を遺しています。

「おほようございませす。」  
弾んだ子どもたちの笑顔と声が青空に響き渡る。  
本校は、児童数16名、職員数7名の小規模校である。人数が少ない分、「共通理解・共通実践」が教育活動の成功の鍵を握る。  
一人一人の持ち味を発揮するばかりでなく、互いにグレイゾーンを埋めていくことが必至である。  
また、保護者、地域の協力なくしては、立ち行かない。  
教育目標実現のため、学校課題を明確にしたマネージメント・サイクルを生かし、より積極的な教育活動の推進を図る必要がある。  
特に、子どもたちに寄り添い、笑顔あふれる教育活動が展開できるように学校経営をしていきたい。

「深雪に耐えた山毛櫨の並」で始まる校歌のとおり、四月というのに体育館のギャラリの上までもある雪に驚いた時から半年余りが過ぎました。今では、燃えるような紅葉とそれを静かに映す只見川を眺めながら勤務しています。  
42名の子供たちの「おほようございませす。」という元気な声で一日が始まり、キラキラしたその瞳に私自身もパワーをもらいながら今日までやってきたような気がします。  
教頭として夢中で過ぎた毎日ですが、学校行事やPTA活動等にはほぼ100%の参加率という熱心で協力的な保護者や、明るく前向きな教職員と共に、横田小学校の子供たちの成長のために今後も努力していきたいと考えています。

### 「笑顔」あふれる学校に



山都町立  
山都第二小学校  
校長  
小関 れい子

### 「共に」



金山町立  
横田小学校  
教頭  
二瓶 悦子

### 「吸収」から「活用」へ



宮城県古川市立  
古川第五小学校  
教諭  
大西 恒夫

宮城県古川市への異動。着任の時には、幕末京都へと向かった会津藩士の期待と不安を想像し、大げさに緊張していました。それから一年半、本校教育の充実に向け切磋琢磨する教師集団に接し、場所は違えど、教育の原点は一つであることを実感しました。  
なかでも、近い将来に予想される宮城県沖地震などの災害へのきめ細かな対応計画と訓練。基礎・基本の定着を目指した朝の「パワータイム」の実施など、地域や学校の独自性のある教育活動には、学ぶことが多くあります。  
自分で決めた「吸収の一年」が終わり、今年には「活用の一年」。貴重な学習の場を与えていただき、教員としての力量をさらに高めていけるよう努力を重ねてまいります。

# 私の抱負



## 心に残る人々

金山町教育委員会教育長  
雪下 明雄

「あなたは、この子を育てることができますか。」  
長男が誕生して、二ヶ月のことだった。告げられた息子の病気に愕然とした。

どうしようもない不安の中、私の相談にのってくださったのが、町診療所の須田透先生である。病院のこと、家族のことを親身になって考えてくださった。不安な私や家族がどれだけ支えられたかは、言葉では言い尽くせない。息子は、大学病院で手術をうけ一命を取り留めた。しかし、その

代わりとして片足を失った。

それからの私たち家族の生活に、迷いや不安が次々と訪れた。片足の息子の成長をどのように支えるか…。その最大の不安は、小学校入学。トイレ、運動、行事への参加など。あきらめて「無理だ」と言うのは簡単であったが、本名小学校の先生方は違った。「何でも挑戦を。参加を。」齊藤リン子先生、栗田栄次先生、遠藤晴男先生、教頭先生は新國正明先生、渡部敏郎先生。校長先生は原市英先生、雪下仁先生。心に残る方々です。なんとと言っても6年生での御神楽岳登山では、みんなに支えられ、息子は見事に頂上まで登ることができた。あの時の山頂よりの眺めは一生忘れられない。中学校では、滝沢玲子先生にお世話になった。息子は今、かけがえのない家族を持つことができたし、この方々は私自身にとってもかけがえのない恩師である。

## 作品と指導

習字

「草原」  
塩川町立塩川小学校  
5年 長谷川日向子

五年 長谷川日向子  
草原

たれのある文字の組み立て方に留意させるために、「原」の2画目の始筆と終筆を意識させて指導にあたりました。また、横画が多いので、間隔と線の太さに注意させました。本作品は、バランスよく書けました。

指導者 渡部 孝子

工作

「木に例えた自分」  
会津若松市立第二中学校  
3年 戸田千晴



抽象的な表現に馴染みのない生徒達に「自分を木に例えたら」と投げかけたところ、自分なりの意味をもたせた色々な木が表現されました。この作品は、育ちにくい環境(石の形)でも一生懸命大きく育ちたい(枝が手の形)思いが込められています。

指導者 小池 洋

絵

「鼓笛パレード」



湯川村立勝常小学校  
2年 二瓶 拓実

ボンボンを持って鼓笛パレードに参加した時の作品です。

風に揺れるボンボンの動きをクレパスを使ってシャッシャッと言いながら描きました。リズムによって踊る自分や友達のきらきらした目や体の動きにも着目して表現しました。

指導者 佐々木 郁子

お知らせ

会津教育事務所のホームページを公開しています!

ホームページアドレス

<http://www.aizu-eo.fks.ed.jp/>

掲載項目

○総務課 ○生涯学習課 ○管理課 ○指導課 ○教育相談 ○リンクなど